

# 第七期帯広市総合計画

## 基 本 構 想

帯 広 市



## 目 次

1	基本構想の期間	1
2	将来のまちの姿	1
3	まちづくりの目標	3
	(1) ともに支え合い、子どもも大人も健やかに暮らせるまち	
	(2) 活力とにぎわいと挑戦があるまち	
	(3) ともに学び、輝く人を育むまち	
	(4) 安全・安心で快適に暮らせるまち	
4	人口減少社会への対応の考え方	4
5	都市形成の考え方	5

## 1 基本構想の期間

基本構想の期間は、2020（令和2）年度から2029（令和11）年度までの10年間とします。

## 2 将来のまちの姿

あおあお ひろびろ いきいき

未来を信じる 帯広

帯広は、先住民族であるアイヌの人たちが自然と共生する独自の文化を営む地に、晩成社をはじめ全国各地から高い志を持って入植した人たちが、多くの苦難を乗り越え原野を開墾し、様々な事業に挑みながら力を合わせて築いてきた平原のまちです。

開拓の初期から十勝の中心地として市街地を形成してきた帯広は、道路・鉄道などの整備と相まって、農地の拡大が進む十勝と、経済的・社会的な一体性を持ちながら、発展の歩みをともにしてきました。

高度経済成長期以降は、人間尊重を基調とした田園都市の創造をまちづくりの理念に据え、産業・経済、教育・文化、医療・福祉、行政などの広域的な都市機能が集積する都市空間と、安全で良質な農畜産物を生み出す農村空間を形成し、日本を代表する食料基地・十勝の中核都市として大きな役割を担っています。

そして現在、十勝・帯広では、食と農、自然などの地域の強みや魅力を活かし、農林漁業の成長産業化や食の付加価値向上、地域の魅力発信など「フードバレーとから」の取り組みを管内 19 市町村が一体となって進めています。

こうした取り組みを通して、地域経済の活力は向上し、農業生産や食の輸出の拡大、バイオマスや ICT など関連産業の創出、アウトドア観光やビジネスなどの交流の活性化が図られ、地域に立脚した新たな価値の創出に向け行動する多くの挑戦者が現れてきています。

さらに、道央圏やオホーツク圏、釧路圏との高速交通ネットワークの充実などにより、各圏域との結節点に位置する帯広は、東北北海道におけるビジネスや物流、交流などの拠点として発展の可能性が広がっています。

澄み切った青空、清らかな水、雄大な山並み、どこまでも広がる平野。その上に成り立つ、我が国有数の農業と、ゆとりある都市空間。北国の厳しい環境の中で培われてきた不屈の開拓者精神と人々の結びつき。

社会経済の成熟化と加速的な変化が同時に進む時代にあって、私たちは大都市圏とは異なる豊かさを享受し、地域が持続的に発展していくための資源、困難に挑むことで築いてきた実績と自信を手にしていきます。

ここに暮らす誰もが、十勝・帯広の歴史・文化に誇りと愛着を持ち、明るい未来を信じて、それぞれの挑戦や行動を続ける、活力ある地域社会の実現を目指します。

### 3 まちづくりの目標

誰もが、夢や希望を持って幸せに暮らし続けることができるよう、将来のまちの姿の実現に向けて、4つの目標を掲げ、市民と市がともに力を合わせまちづくりを進めます。

#### (1) とともに支え合い、子どもも大人も健やかに暮らせるまち

少子化・超高齢社会において、地域全体で支え合い、安心して子どもを産み育てることができ、高齢者、障害のある人など、誰もが生きがいを持ち、社会と関わりながら、健やかに自分らしく暮らし続けることができるまちを目指します。

#### (2) 活力とにぎわいと挑戦があるまち

グローバルな競争の激化や労働力人口の減少、地域経済の縮小などの環境変化に対応し、地域の基幹産業である農業や多様な地域資源、都市機能の集積などの強みを活かしながら、産業の持続的な発展や交流人口・関係人口の拡大などを図り、誰もが住み続けたいと思える、活力とにぎわいと挑戦があるまちを目指します。

#### (3) とともに学び、輝く人を育むまち

時代の変化に即した知識や技能などを習得するとともに、地域への誇りや愛着を深め、仕事や地域活動などまちづくりの幅広い分野で活躍し、一人ひとりが充実した人生を送ることができるよう、十勝・帯広の歴史、文化、自然、産業や人材などを活かし、学校や地域において、誰もがそれぞれの目的に応じて学び、互いに高め合うことができるまちを目指します。

#### (4) 安全・安心で快適に暮らせるまち

自然災害や地球温暖化、空き家等の増加、インフラ施設等の老朽化などへの対応や、緑に親しめる環境づくりなどを通して、誰もが安全・安心で快適に暮らし続けることができる強靱で持続可能なまちを目指します。

## 4 人口減少社会への対応の考え方

本市ではこれまで、人口増加期には、地域の将来発展に向け、総合計画で人口規模を想定し、市街地の拡大、都市基盤や居住環境の整備などを計画的に進めてきました。

しかし、東京圏などの三大都市圏の総人口が減少に転じるなど、我が国全体が本格的な人口減少社会に移行し、本市においても、中長期的な人口減少の進行が見込まれる中で、人口についての新たな考えのもと、活力ある地域社会の実現に取り組んでいくことが求められています。

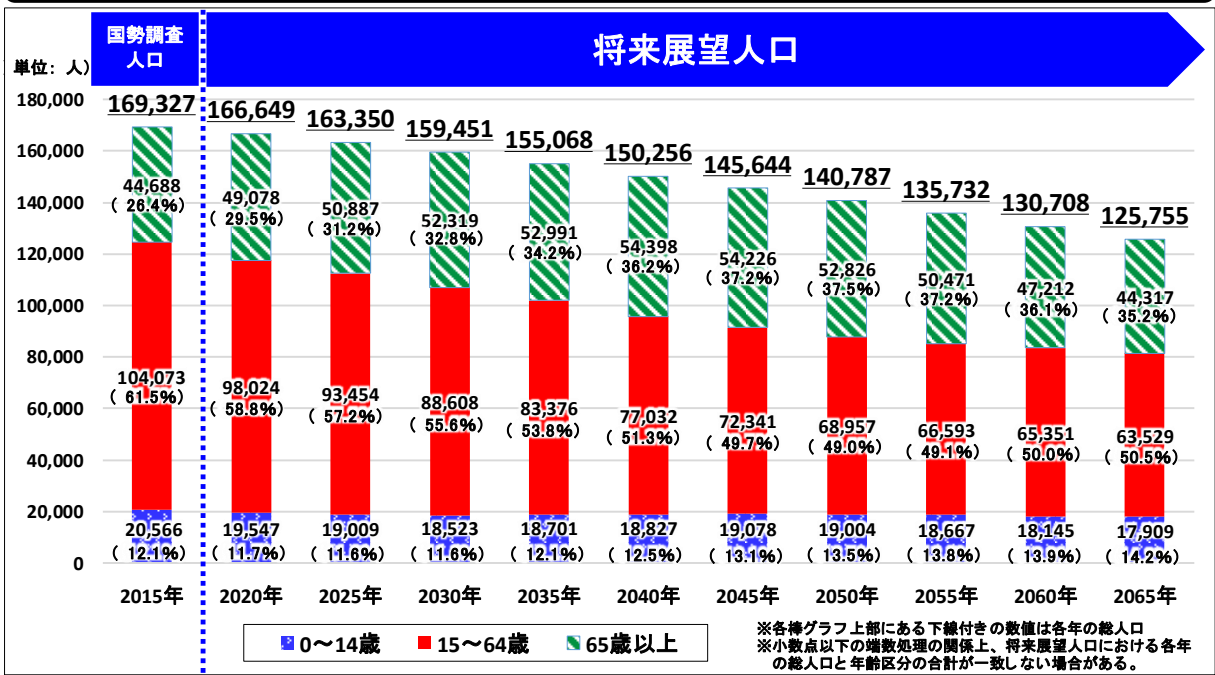
人口の急激な減少は、まちづくりへの幅広い影響が考えられることから、人口減少をできるだけ抑制する視点を持ち、出生率の改善や定住人口の増加などに取り組んでいく必要があります。

さらに、中長期的な人口減少社会への移行を踏まえ、労働力人口の減少や高齢者の増加などの変化に適応させる視点と、変化を前向きに捉え、新たな可能性を積極的に見出していく視点を持って、交流人口・関係人口の拡大など、時代に即したまちづくりに取り組んでいくことが重要です。

急速な人口減少が進む北海道にあって、本市は堅調な人口推移を続けています。その背景には、農業を中心とする確かな産業基盤と、新しいことに挑戦する人材の力があると考えます。

こうした資源や人材を最大限に活かし、上記の3つの視点を基本に、「帯広市人口ビジョン」に掲げる将来展望人口を見据え、人口対策の計画的な推進を図り、誰もが安心して住み続けることができる活力あるまちを目指します。

**参考：帯広市の将来展望人口（令和元年12月時点）**



## 5 都市形成の考え方

本市は、整然と区画された市街地を帯広の森や河川緑地で囲み、肥沃な農地、豊かな森林との調和を保ちながら、機能的で美しい都市を形成してきました。

今後は、地域経済の縮小や市街地の低密度化、さらには、公共施設等の老朽化の進行などを踏まえ、市街地の拡大抑制を基本に、これまで整備・蓄積してきた都市機能と快適な都市空間の維持・向上や産業振興、農村地域の活性化の視点を持ち、東北道の拠点都市として、持続可能で活力ある都市づくりを進める必要があります。

こうした考え方のもと、都市地域、農村地域、森林地域・自然公園地域の区分に



基づき、都市形成を進めます。

### ①都市地域

これまで整備してきた施設等の機能を効果的に発揮していくため、インフラ施設等の適切な維持管理や長寿命化のほか、空き地・空き家等の利活用の促進、公共施設の複合化・集約化などを図ります。

また、中心市街地の都市機能の充実や産業系用地の確保を図ります。

### ②農村地域

グローバル化の進展や農業従事者の減少などを踏まえ、農業生産体制の強化に向けた農地等の基盤整備や先進技術の導入などにより、優良な農地の維持・保全を図り、良質な農畜産物の安定的な生産につなげていくとともに、生活の場として、農村市街地や農村集落のコミュニティの維持・確保や、都市と農村の交流促進による魅力発信などを図ります。

### ③森林地域・自然公園地域

木材の生産や地球環境の保全、水源かん養など森林の有する多面的機能などを踏まえ、森林の適正な管理・保全に努めるとともに、豊かな自然公園地域の保全や利活用を図ります。